

西之表市と防衛省との協議の場報告（11 その1）

住民の不安や期待に関する事柄を整理し、判断の材料とするため、令和4年2月28日（月）から「西之表市と防衛省との協議の場」を開催しています。5月12日（金）に第12回協議の場を開催しましたので、概要をご報告します。

第12回協議の場

【日時】令和5年5月12日（金）13：10から

【場所】西之表市役所

【概要】（以下市＝西之表市、防＝防衛省）

〈自衛隊施設の整備に係る地元の声を受けた主な防衛省の対応〉

防：資料に基づき、以下のとおり説明

【種子島の宿泊施設や賃貸物件の空き状況等への影響】

種子島の宿泊施設や賃貸物件の空き状況等への影響を最小限にとどめるため、馬毛島に3,000室を超える仮設宿舎を建設することとし、順次建設中である。また、種子島内でも、一般の民間事業者が設置した仮設宿舎等の更なる利用を工事受注者に働きかけるとともに、工事受注者において仮設宿舎の設置も検討しているところである。さらに、工事受注者において仮設宿舎の設置を検討するに際しては、局地的な設置による上水道の容量不足に懸念が生じないよう、西之表市のお考えもお伺いしながら、分散して設置するよう工事受注者と調整していく。いずれにしても、できる限り住民の方々の生活に支障が生じないよう、引き続き、西之表市を始めとする地元自治体と緊密に調整してまいりたい。

【馬毛島の仮設宿舎の建設スケジュール】

馬毛島の仮設宿舎については、工事の進捗に応じ、段階的に増やしていくこととしており、本年7月頃までに、約340室の仮設宿舎を馬毛

島内に建設する計画である。

【種子島に滞在する工事関係者等】

種子島に滞在する工事関係者については、本年4月1日現在、種子島に滞在する工事関係者は約810名で、内訳は、①宿泊施設に滞在する工事関係者が約150名、②賃貸物件に滞在する工事関係者が約280名、③工事関係者用の仮設宿舎に滞在する工事関係者が約200名、④自宅等に滞在する工事関係者が約180名となっている。また、種子島に滞在する工事関係者のピークは、工事着手から約1年後で、約2,000名を見込んでいる。さらに、馬毛島に滞在する工事関係者のピークは、工事着手から約1年後で、約4,000名を見込んでいる。種子島及び馬毛島に滞在する工事関係者の推移の見通しについても、「自衛隊施設の整備に係る地元の声を受けた主な防衛省の対応」に記載したとおりである。そのほか、工事受注者が使用するレンタカーについて聞き取りを行ったところ、本年4月1日現在、種子島内のレンタカー会社から約40台を借りており、その車種は、観光客の方々のニーズの高い乗用車タイプではなく、ライトバン等の業務用車両が中心になっているとのことであった。このほか、種子島外の建設重機のリース会社等から約90台を借り入れている。

【廃棄物の処理】

廃棄物の処理について、防衛省としては、まず、廃棄物の減量のため、馬毛島内に生ごみ処理機や簡易焼却炉、浄化槽汚泥用の脱水装置及

び乾燥処理装置を設置する。また、工事受注者に対し、ごみの排出量を削減するとともに、ごみ分別のための責任者や作業員を配置するよう既に指示したところである。さらに、賃貸物件に居住する工事関係者の生活ごみについては、住民の方々のご懸念を踏まえ、工事受注者に対し、ごみ出しに際しては、地元のルールに従うことや近隣住民の方々とトラブルにならないようにすること、また、自治会費等を支払った上でごみステーションを利用することについて、累次にわたり指示している。いずれにしても、種子島清掃センターの運用に支障が生じないように、引き続き、地元自治体等と緊密に調整しながら、地域に与える影響を最小限にとどめ、地元の方々と良い関係を築いていけるよう努力してまいる。

【工事の安全（交通安全を含む）、治安】

交通安全を含む工事の安全、治安について、防衛省としては、まず、住民の方々のご懸念を踏まえ、工事受注者に対し、交通法規の遵守を含め、工事の安全に万全を期すこと、また、私生活においてもトラブル等が生じないようにすることについて、累次にわたり指示している。また、工事車両の通行ルート沿いの学校等の登下校時に交通誘導員を配置することとし、具体的な場所や時間帯は、今後、西之表市と調整させていただきたい。さらに、工事関係者がかかわるトラブル等が生じた場合に迅速な対応がとれるよう、平素から警察等との情報交換を行っているが、これまで、防衛省として、工事関係者によるトラブル等があったとの情報には接していない。万が一、工事関係者によるトラブル等が発生した場合には、西之表市にも速やかに情報提供する。今後とも、地元自治体や警察等と緊密に連携し、地域に与える影響を最小限にとどめ、地元の方々と良い関係を築いていけるよう努力してまいる。

【地元調達】

地元業者の活用に関する地元の声については、馬毛島の仮設宿舎を運営する受注業者に情報提供したところである。

【馬毛島内の救急体制、避難体制】

馬毛島内の救急体制については、まず、馬毛島の仮設宿舎に医務室を設置し、看護師 1 名を既に配置、具体的には、2 名のうち 1 名を 1 週間ごとにローテーションで配置したほか、医師の定期巡回についても、現在、医療機関と調整しているところである。また、馬毛島内の避難体制について、馬毛島の仮設宿舎は、通常の建築物と同様の強度を有しているため、台風時、馬毛島に滞在する工事関係者は、原則、馬毛島の仮設宿舎に避難する。

地元からの様々な声については、九州防衛局種子島連絡所を窓口とし、地域に与える影響を最小限にとどめるよう、引き続き、地元自治体と緊密に連携しながら速やかに対応してまいる。

市：馬毛島の仮設宿舎の完成時期などの進捗状況について、適宜、情報提供をお願いする。また、馬毛島に滞在する工事関係者のピークが工事着手の約 1 年後である来年 2 月に約 4,000 名となるとのことであるが、そのピークは、どの程度続くものと見込まれるのか。さらに、来年 2 月以降の工事関係者の推移の見通しについて、今後も継続的に情報提供いただけるのか。

防：馬毛島の仮設宿舎の建設スケジュールについては、工事の進捗に応じ、段階的に増やしていくこととしており、本年 7 月頃までに、約 340 室の仮設宿舎を馬毛島内に建設する計画である。また、馬毛島に滞在する工事関係者の推移の見通しは、資料にもお示ししているとおり、工事の進捗等により変動する可能性があるが、6 月 1 日時点で約 300 名、8 月 1 日時点で約 800 名、10 月 1 日時点で約 2,000 名、12 月 1

日時点で約 2,500 名、令和 6 年 2 月 1 日時点で約 4,000 名を見込んでいる。馬毛島に滞在する工事関係者数のピークは、工事着手から約 1 年後を見込んでいるが、その先の工事関係者数の推移は、工事の進捗等によるので、現時点で予断を持ってお答えすることは困難であることを御理解頂きたい。いずれにしても、仮設宿舎の進捗状況や馬毛島に滞在する工事関係者の推移は、今後とも、西之表市を始めとする地元自治体に対し、継続的に情報提供する考えである。

市：馬毛島内への生ごみ処理機や簡易焼却炉、浄化槽汚泥用の脱水装置及び乾燥処理装置の早急な設置をお願いする。また、浄化槽汚泥用の脱水装置及び乾燥処理装置が設置されるまでの間の汚泥の搬入については、処理許容量を超えることが予想されるため、計画的な搬入をお願いする。搬入のタイミングは、担当者間で調整して頂きたい。さらに、簡易焼却炉の設置後に排出される焼却灰の処分については、種子島地区広域事務組合と早急に調整して頂きたい。

防：生ごみ処理機や簡易焼却炉、浄化槽汚泥用の脱水装置及び乾燥処理装置は、できる限り早く設置したい。また、浄化槽汚泥用の脱水装置及び乾燥処理装置の設置までの間の汚泥の搬入は、西之表市と緊密に調整しながら計画的に行う。さらに、簡易焼却炉の設置後に排出される焼却灰の処分は、種子島地区広域事務組合と早急に調整する。

市：ごみ分別の責任者及び作業員を早急に配置し、適切かつ確実なごみ分別、減量化を徹底するようお願いする。また、人員の交代等も想定されるので、定期的な教育・指導の徹底をお願いする。さらに、ごみ出しに際しては、工事受注者に対し、地元のルールに従うことや近隣住民とトラブルにならないようにすること、自治会費等を支払った上でごみステーションを利用することを指示したとのことだが、人員の交代

等も想定されるので、定期的な教育・指導の徹底をお願いする。

防：ごみ分別の責任者及び作業員は、本年 2 月に配置済みである。今後とも、ごみの分別、減量を徹底するため、関係者への教育を定期的に行っていく。

市：工事に関連して種子島内で排出されるごみや汚泥についても、馬毛島に設置する生ごみ処理機や簡易焼却炉、脱水装置及び乾燥処理装置で処理できないか検討して頂きたい。

防：ご要望については、西之表市のお考えも伺いつつ、どのような対応がとれるのか検討していく。

市：工事中の廃棄物の処理等に関し、排出量の試算や処理費用の負担をお願いする。

防：ごみ排出量は、引き続き適切に試算し、西之表市に情報提供する。また、馬毛島及び種子島の仮設宿舎に滞在する工事関係者から排出されるごみは、事業系一般廃棄物として、受注業者が、他の事業者と同様に、有料で処理しているものと承知している。さらに、一般的に、防衛施設から排出されるごみを継続的かつ安定的に受け入れるため、ごみ処理施設の整備が必要となるなどの場合には、防衛省の補助事業として助成する制度もあり、具体的なご要望を伺いつつ、適切に対応していく。

市：工事受注者に対し、工事の安全に万全を期すこと、交通法規を遵守すること、私生活においてもトラブル等が生じないようにすることについて指示したとのことだが、人員の交代等も想定されるので、定期的な教育・指導の徹底をお願いする。また、これに限らず、市民の安心安全のため、防犯カメラの設置を防衛省側で実施することは可能か。さらに、工事車両のアイドリングストップに留意するなど、定期的な教育・指導の徹底をお願いする。特に、市内の港に係留している工事関係の船周辺の朝方の騒音などについて、周辺住民から懸念の声を頂いて

おり、具体的な対策を検討して頂きたい。このほか、工事関係者によるトラブルが発生した場合には、随時報告して頂きたい。

防：工事受注者に対し交通法規の遵守を含め、工事の安全に万全を期すこと、また、私生活においてもトラブル等が生じないようにすることについて累次にわたり指示しており、工事車両のアイドリングストップを含め、今後とも、関係者への教育を定期的に行っていく。また、工事受注者に対し市内の港に係留している工事関係の船の運航に際しては、周辺住民の方々に配慮するよう指示し、不要なアイドリングは行わない、港内ではエンジンの回転を低く抑える、また、出港後、港から十分に離れてからエンジンの回転を上げるといった措置を講じていると承知している。さらに、万が一、工事関係者によるトラブル等が発生した場合には、速やかに西之表市に情報提供する。なお、防犯カメラについては、例えば市民の安全安心のため、西之表市が再編交付金を活用して防犯カメラを設置する形であれば、具体的な計画を伺った上で検討するので、よく調整させて頂きたい。

市：交通誘導員の配置は、時間や場所などの具体的な検討を行い、教育委員会等の関係機関と十分に調整し、早急に配置して頂きたい。また、工事車両の通行ルートや交通量、時間帯等の情報提供をお願いします。さらに、通行の多いルートや時間帯についての住民への周知をお願いします。私（八板市長）としては、住民の不安や期待の声に対して現実的に対応する必要があり、防衛省と緊密に調整しながら住民生活への影響を最小限にとどめる必要があると考えている。

防：交通誘導員は、できる限り早く配置できるよう、西之表市や教育委員会等と緊密に調整していく。また、馬毛島の施設整備に係る工事車両の通行ルートは、評価書に記載したとおりである。さらに、交通量は、環境監視調査におい

て定期的に調査しているところであり、取りまとめ次第、西之表市に情報提供したい。工事車両の通行時間帯は、工事の進捗や海象、天候等により一定しておらず、あらかじめ情報提供することは中々難しいが、工事車両の通行が多い期間などについては、事前に情報提供したい。

市：地元調達については、地元側で事業組合を設立して対応する動きもあるなど、経済効果に期待する住民の声もあることから、配慮をお願いします。

防：地元業者の活用に関する地元の声については、馬毛島の仮設宿舎を運営する受注業者等に情報提供したところである。

市：医師の巡回等も含め、馬毛島での医療体制の充実について関係機関と十分に調整して頂き、早期の体制確立をお願いします。特に今後は、現実的な問題として、熱中症が起こり得る懸念が強くあるので、しっかりと対応できる体制の確立をお願いします。また、夜間や荒天時を含む急患搬送体制や市民の救急対応に影響が生じないような体制等について、熊毛地区消防組合を始めとした関係機関と引き続き調整して頂き、早期の体制確立をお願いします。

防：馬毛島内の医療体制は、馬毛島の仮設宿舎に医務室を設置し、看護師 1 名を既に配置（2 名のうち 1 名を 1 週間ごとにローテーションで配置）したほか、医師の定期巡回も、現在、医療機関や熊毛地区消防組合と調整しているところである。また、気温が上がったときの工事の実施に際しては、熱中症対策を講じつつ、工事関係者の健康に留意しながら安全に進めていく考えである。

市：今回で終わりということではなく、今後も様々な問題が出てくると思うので、しっかりと対応をお願いします。